

カラコギカエデ

Acer ginnala

カエデ科



カラコギカエデ。実をつけたところ。円内は特徴的な葉

名前の由来

カエデは、蛙の手のような葉なので、「蛙手(かえるで)」の変化。カラコギは「鹿子木(かのこぎ)」の変化。
漢字名：鹿子木楓

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

形態的特徴

湿地や原野に生える落葉広葉樹、樹高6~10m。雌雄同株。葉は長さ5~10cmの卵形で基部近くで3浅~中裂し、欠刻状の重鋸歯あり、先はとがる。対生。花は円錐花序に黄緑白色で径5~7mmの花をつける、雌雄異花で両生花もある、5~6月開花。雌雄異花。果実は翼果で長さ2.5~4cm、9~10月に赤色~暗赤色に成熟。

類似種との見分け方：ネグンドカエデは葉に厚みがあり、高木になるが、カラコギカエデは高木にならない。ネグンドカエデは幹から直接細かい枝が出る。



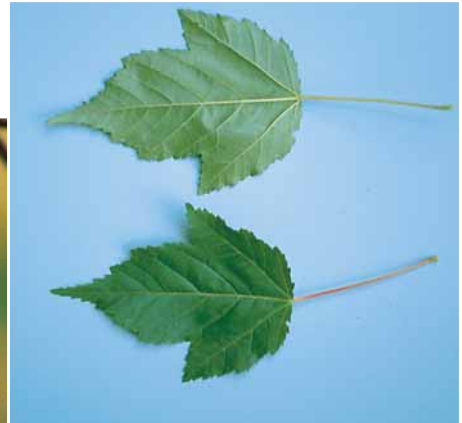
カラコギカエデの雄花



カラコギカエデの雌花



翼のあるカラコギカエデの実。付け根付近に種子あり



カラコギカエデの葉。特徴的な形をしている。大小二重のギザギザ(重鋸歯)がある



カラコギカエデの樹形



カラコギカエデの樹皮。うろこ状にはがれる



カラコギカエデの冬芽。2つずつ向かい合う。2~3mm



カラコギカエデの葉。2つずつ向かい合って枝につく(対生)

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期						■						

生育環境・分布

十勝の低木の主要樹種。林内や林縁、湿地に生育。河畔林に多い。**分布**：国外分布は、朝鮮、中国東北部、東シベリア。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全域（沼、沢、林野）。
十勝地方生育状況は、全域。



カラコギカエデ。中程度の大きさ。林縁部でもよく見られる

繁殖生態・寿命

花期は5～6月、種子は9～10月に成熟。寿命は不明。

他生物との関わり

低木で、細かい枝が密生して、藪を形成するので、藪の中にアオジやアカハラ等の小鳥が巣をつくる。

植栽関係

種子は1～2年で発芽。樹齢25年で、直径15cm、樹高6m、根系の最大深度120cm、根の広がり半径1.5m。根の支持力は中程度。移植は容易。水辺に良く生育する木だが、常に水に浸かる場所では、枯れる。土壌：壤土～埴質壤土、弱湿性～弱乾性、通気性は悪い場所良い、pHは耐アルカリ性、堅密度は中程度の場所。光は中間性～陽性。



アオジ（左）とアオジの巣（右）

興味深い話

- 器具材、公園樹などに用いられる。
- 翼のついたプロペラような果実で、1片をちぎって空中に投げると、クルクル回転しながら落ちる。
- 秋にはまず実が赤くなり、続いて葉も紅葉する。



赤くなったカラコギカエデの実



冬にもついているカラコギカエデの実



カラコギカエデの紅葉

配慮事項

根系の最大深度120cm、根の広がり半径1.5m。根の支持力は中程度。移植は容易。水辺に良く生育する木だが、常に水に浸かる場所では、枯れる。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葦原・
ワシ・
シ・
タカ)
鳥類
樹林

参考文献

「北海道樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「新装版 樹木根系図説」荻住昇 誠文堂新光社 1987

「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992

広葉樹の実生による繁殖 久保田泰則 光珠内季報40巻 1979
p:16～p:26